医事課 宮城島氏

病院薬剤師業務における

活用現場の声

どんとこい持参薬で鑑別業務がスピードアップ！

どんとこい持参薬は、医薬品画像、構図もしっかり出るので、鑑別ツールとしても非常に使いやすいです。患者さんの持参薬は、処方箋のようにきれいに情報が並んでいるわけではありません。数がバラバラなものから一包化されているもの、服用中のものからそうでないものまで様々な薬が持ち込まれます。お薬手帳の普及によって何の薬かわからないという状況は改善されていますが、ジェネリック医薬品の登場により持参薬の鑑別は複雑になりました。以前は本を見て鑑別書を手入力で作成していましたが、システム導入後は直接データ入力ができ、電子カルテにも反映出来るようになりました。煩雑でなかなか進まなかった鑑別書作成業務だったのですが、今は凄くスピーディーに行えています。また、院内の採用薬とデータベースを紐付けて適切な代替薬の候補が鑑別時点で正しく挙げられるという点も凄く使いやすいですね。退院時には、入院中に処方されたお薬や服薬状況だけでなく、持参薬の情報も含め、患者さんにお薬手帳として提供できるので、医療安全の目的としても活用をしています。

富士市の医療の中心的な役割を担う富士市立中央病院

富士市立中央病院

- 病床数　：520 床
- 診療科　：27 科
- 導入時期：2009 年 5 月

MC=Valuation (MC=V) によるデータ分析が業務改善と厚労省へ提出する報告書作成に大きく寄与しました

当院は去年から経営コンサルタントと共に、薬剤科含め各部署での業務改善に取り組んでいますが、コンサルタント会社からは部門ごとに抽出経緯がわからない資料が提示されるので、これが本当に正しいのか判断が難しい部分がありました。薬物治療の適正化にフォーカスを充てた MC＝V のお話をいただいて、薬剤科として独自にデータ分析が出来れば、私達から業務改善など病院に貢献できる部分を見いだせるかもしれないと考えました。病院全体として、どの様な部分が他の施設に比べて勝っているか劣っているかを、他の病院と比較ができ、他部門との連携も図れる機能も導入の決め手にもなりました。抗菌薬の集計、厚労省へ報告書の提出は医事課にとって大変な作業であった為、抗菌薬レポートには非常に助けられています。丁寧に使い方を説明して頂いたこともあり、誰にでも使いやすく、わかりやすいシステムです。例えば、抗菌薬適正使用支援加算に関わる報告書を作成する中で、外来における〝経口抗菌薬の処方状況等〟という項目があるのですが、期間を指定するだけで簡単に集計数値が出せるので、非常に簡単でありがたいです。また、WEB サイトで確認できるので、抗菌薬のことをメインで取り扱う感染対策室とも共有できるようになった点も良かったと思います。

この記事の内容に関するご質問等は、下記へお問合せ下さい。
■メディカルデータベース株式会社
Address: 東京都港区芝大門 2-5-5
住友芝大門ビル 11F
Tel: 050-1751-5877
Mail: mcv-contact@medicaldb.co.jp
URL:https://www.medicaldb.co.jp/